

# 設置をすすめる会結成

## 阪神三宮駅に東口を

### 混雑緩和や地域活性化

朝夕のラッシュ時の混雑を緩和し、併せて地域の活性化を図ろうと、阪神三宮駅東側に改札口の設置運動を進めている神戸市内の労働組合などが二十三日、「阪神三宮駅に東口の設置をすすめる会」を結成した。

#### 現状は災害時に問題 イベンと展開

「すすめる会」によると、阪神三宮駅は一日十万人を越す乗降客が利用するにもかかわらず、自動改札口は、さんちが側と市営地下鉄側の二万中、二次災害も起こりかねないという。また、ショッピングセンターなどがある西側に人が集中するため、東側の二宮商店街など地元商店街からも新たな改札口を設置し、活性化を願う声が高まっている。



阪神三宮駅の東口新設を求めて開かれた結成総会—神戸市勤労会館

しかし、同駅は地下鉄のため、東口を設置するには、市の三宮駅前区画整理事業との関連や巨額の通路整備費などの問題があり、阪神電鉄単独では着手できないのが実情。そこで、神戸地区労働組合協議会(田中博文議長)が中心となって昭和六十年から毎年、ヒラの配布などで市民に理解を呼びかけたり、市に同駅東口新設要望書を提出したりしてきた。昨年、市の予算に初めて調査費二千万円が計上され、これを機に、地元自治会や商店会も参加して二月に委員会を設け、「すすめる会」の発足準備を進めてきた。

#### 市内の労組など

二日、同市中央区の勤労会館で開かれた結成総会には

会員約三十人が参加。準備会の経過報告や会の名称、会則の決定、役員選出などを行った。今後、より多くの市民にこの運動を広めるため、チラシ配布や署名、PRイベントなどを積極的に展開する方針を決めた。会長に選出された田中博文・神戸地区協議会長は「災害が起きてからでは取り返しがつかない。市民の目に見える活動を通して賛同を得、ぜひ東口設置を実現させたい」と話している。

#### 外国人学校で 市に要請書

神戸地区労(田中博文議長) 待遇改善を地域労

長、神戸市教組(小巻建一委員長)、兵庫県高教組神戸県立支部(岩淵徳好支部長)は十五日、一般の各種学校と異なる外国人学校を学校教育法第一条に準ずる学校として、資格、待遇改善を図り、関係機関に要請することや、外国人学校、児童、生徒への助成拡大などを求めた要請書を神戸市に提出した。また、J・R西日本に対しても同日、通学定期、団体旅行割引の差別料金を改善するよう求めた要請書を出した。